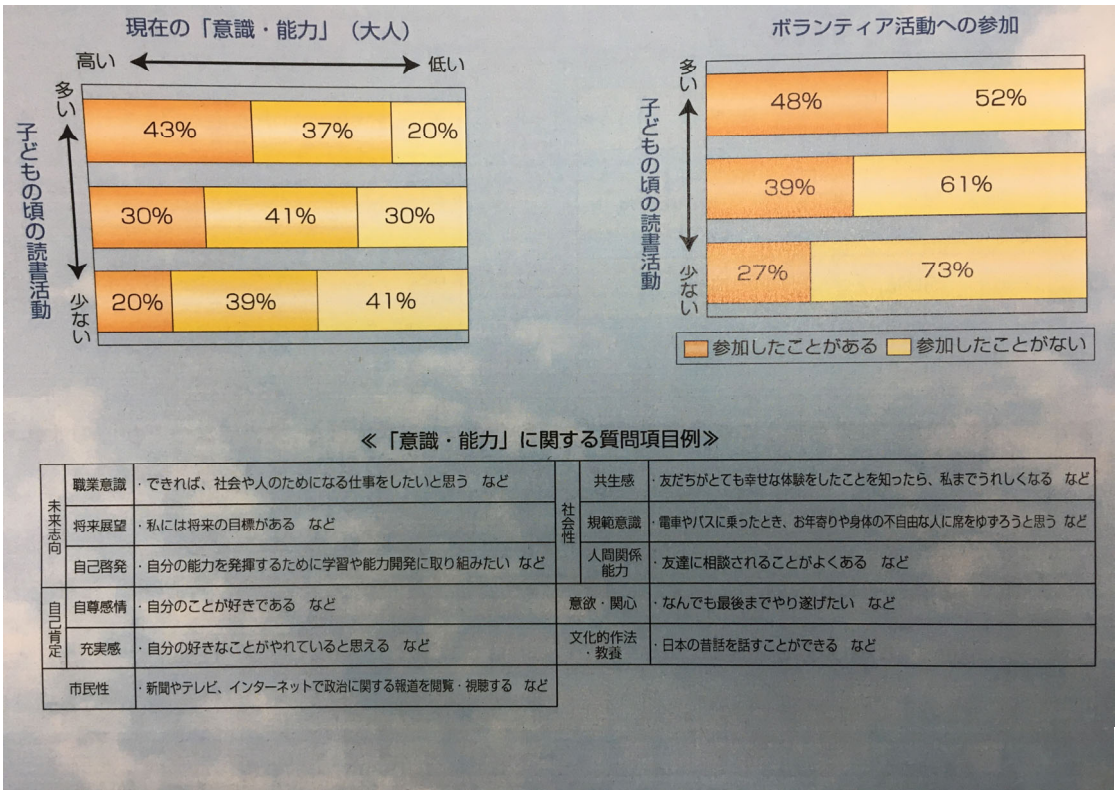
☺「福岡市　子どもと本の日」通信　Ｎｏ．２０１　　令和３年１２月２３日

毎月23日は「福岡市 子どもと本の日」です
～子どもの読書活動を推進しましょう～

子どもの頃の読書は豊かな人生への第一歩

国立青少年教育振興機構の調査によると、子どもの頃（就学前から中学時代）の読書活動が多い大人ほど、未来志向や社会性などの「意識・能力」が高いことがわかりました。また、子どもの頃に読書活動が多い大人ほど、ボランティア活動に参加している人が多い傾向にあります。小学生を対象とした調査からは、読書量が言語力の伸びを予測することの報告もされています。



寒くなるこの季節、また、コロナ禍で子どもたちが家でテレビを見たりゲームをしたりする時間が多くなりがちですが、本の読み聞かせをしたり、親子で同じ本を読み合ったりすることで、読書を楽しみましょう。
公共図書館、公民館で親子で本を借りて読む楽しさもぜひ味わってみてください。

国立青少年教育振興機構 より
http://www.niye.go.jp

Hello！　学校図書館内野小学校

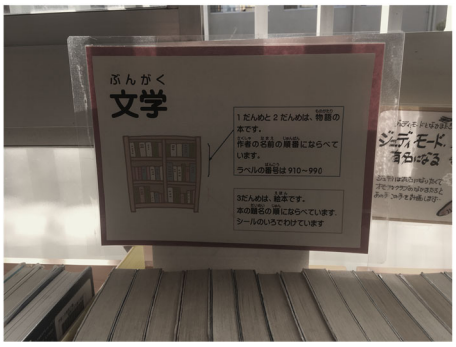
　早良区にある内野小学校の図書館を紹介します。
内野小学校は自然豊かな場所にあり、訪問した時はお天気が良く、冷たい空気が気持ちの良い日でした。校長先生が笑顔で迎えてくださり、子どもたちの様子や、司書教諭、学校司書を中心とした内野小学校の図書館教育についてお聞きすることができました。

　すてきな掲示物が作成してありました。毎月変わるということで、図書館が明るい雰囲気に包まれていました。
　子どもたちが、楽しそうに本を読んでいる姿が目に浮かびました

新型コロナウイルス感染防止のための安全対策の工夫

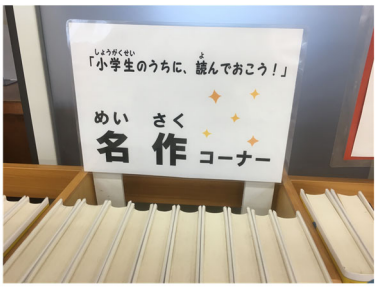
　椅子の数を減らしたり、アクリル板を設置したり、カウンター前は、足跡で間隔を示したりと、新型コロナウイルス対策がきちんと取られていました。

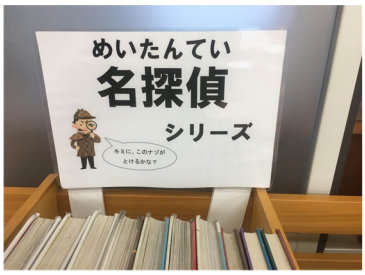
子どもたちが本を選びやすい配架の工夫

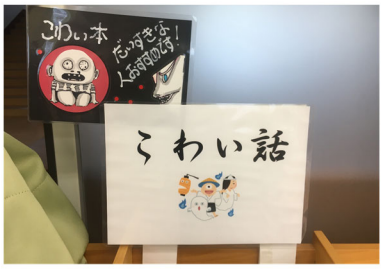


どこにどのような本が配架されているか、分かりやすく説明してありました。
自分の借りたい本や読みたい本が探しやすい工夫がされていました。

コーナー作りの工夫





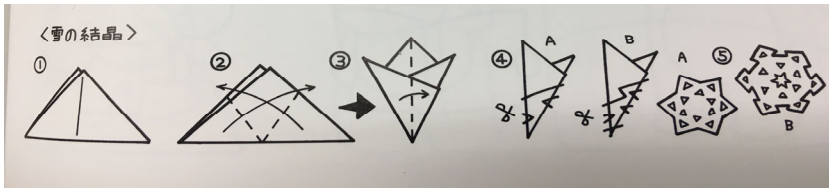


さまざまなコーナーが作られ、本が配架されていました
また、素敵なポップもたくさん作られていました。ポップ作りは、子どもたちの読書の意欲を高めることができます。たくさんのポップから、それを見て読書の幅を広げた子どもたちも多いことでしょう。

本の帯を使った１２月の掲示・展示

　帯の紙はさまざまな種類のものがあります。つるつるした紙、ざらざらした紙、厚い紙、うすい紙・・・など。 掲示物を作るときは、それぞれの紙の良さを活かしましょう。
　また、季節を意識した掲示物があると、本を選ぶときのヒントにもなります。

　雪の結晶を作ってみました。様々な形、色で風に揺れ、キラッと光ってきれいです。切り方でさまざまな結晶ができるので子どもたちと作ってみてください。



1月生まれの文学者

瀬尾 まいこ（せお　まいこ　本名　瀬尾麻衣子）と「卵の緒」

大阪府大阪市　１９７４年１月１６日生まれ

瀬尾氏は国語の教員という仕事にあこがれており，先生になったら子どもたちが楽しく過ごせるような教室を作りたいと思っていました。大学卒業後，中学校の国語の講師をしていました。なにか書いてみようと思ったのは２６歳の時で，一人暮らしをはじめたので，一人の時間ができたからだそうです。

「卵の緒」は，親子の強く確かな絆を描く作品です。この作品を「公募ガイド」に掲載されていた原稿枚数などの募集要件の合う坊ちゃん文学賞に応募すると，大賞を受賞し作家デビューしました。瀬尾氏は，登場人物をこんなふうに描こうなど細かいプロットを書くことはせずに物語を展開し，読んだ人がちょっとでもいい気持ちになれ，中学生はとってもすてきな存在なんだという作品を書きたいそうです。

作品は，「幸福な食卓」（吉川英治文学新人賞），「戸村飯店 青春１００連発」（坪田譲治文学賞），「そして，バトンは渡された」（本屋大賞）などあります。

岡田 淳（おかだ じゅん）と「ムンジャクンジュは毛虫じゃない」

兵庫県　1947年1月16日生まれ

岡田氏は、小中学校の時は主にマンガを読み，漫画家になりたいと思っていました。大学生の時，言葉のないマンガ集「星泥棒」を自費出版し，それがきっかけで，神戸のタウン誌にマンガの連載を３３年間続けました。大学卒業後，西宮市の小学校の図工専科教師になり，児童文学の執筆活動を行いました。

１９７９年に「ムンジャクンジュは毛虫じゃない」が出版されたのは，児童書専門店「ひつじ書房」の店主に見せたことがきっかけでした。当初，原稿用紙３００枚でしたが，出版社の助言で３年半かけて２００枚程度に短くして出版され，児童文学作家デビューしました。この作品の元になる話は，教師になって５年目に２年生の図工の授業で「物語を聞いて描く絵」のための自作の物語でした。

岡田氏は挿絵を自分で描くこともあり，勤務先の小学校が登場人物の名前や着想のきっかけになった「扉のむこうの物語」（赤い鳥文学賞受賞），学校での体験が元になった「学校ウサギをつかまえろ」（日本児童文学者協会賞受賞）などの作品があります

いよいよ冬休みです。長期休業前は、本を一人 2 冊または 3 冊貸し出す学校が多いことと思います。子どもたちはどのような本を借りたのでしょう。

総合図書館にも休みになると、多くの子たちが本を借りにやってきます。本を選んでいるときの子どもたちの表情はとても生き生きとしています。自分の読みたい本を自分で探せるようになると、こんなに楽しいことはありません。さらに、その本が自分の心を動かす物であった時、読書の楽しみを感じていくことでしょう。冬休み中、そんな経験を多くの子どもたちにしてほしいと願っています。　（足立）

今月はドイツの古い伝説をもとにした物語をご紹介します。

『クラバート』
オトフリート=プロイスラー／作　中村浩三／訳　偕成社　1986 年　￥1 600（税別）
＜お勧め年齢＞
乳幼児☆☆☆　小低学年☆☆☆　小中学年☆☆☆　小高学年★★☆　中学生★★★
高校★★★　一般★★★
（★が多い年齢の子どもにお勧めです。）

<本の紹介>
湿地にある粉ひき水車場に、夢のお告げで導かれるようにたどり着いた孤児のクラバート。そこは魔法使いの親方が運営する魔法学校でした。クラバートも見習いとなるのですが、実は大変恐ろしい秘密がかくされています。毎年大みそかになると必ず誰か一人がいなくなるのです・・・。
作者は『大どろぼうホッツェンプロッツ』や『小さい魔女』などを書いたプロイスラー。彼がドイツに古くから伝わる「クラバート伝説」に感銘を受け、１１年の歳月をかけて作ったブラックファンタジーである本書は、プロイスラー文学の頂点をなす作品とも言われています。

＜子どもに手渡す時のポイント>
落ち着いた表紙に文章量の多い本なので、子どもたち自身ではなかなか手に取りたがらないかもしれません。そのような時は、読んでいくと続きが知りたくてやめられなくなるような物語、ラストは背筋が凍るようなドキドキ感が味わえる本だと紹介してください。
映画監督の宮崎駿氏も、この本の伝説や描写に感動したと語り、映画「千と千尋の神隠し」にも影響を与えたそうです。（参考：『宮崎駿全書』　叶 精二／著　フィルムアート社）類似性を感じる部分もありますので、このエピソードを伝えても興味をもってくれると思います。

このコーナーで紹介した本はお近くの図書館や書店に置いてあります。ぜひ手にとってみてください。

発　行：福岡市教育委員会
総合図書館 図書サービス課
電　話：０９２－ ８５２－ ０６３９
ＦＡＸ：０９２－ ８５２－ ０８０１